歴史アラカルト　16

毛利家を江戸時代まで生き残らせた

長州藩の事実上初代藩主「毛利輝元」

三本の矢で知られる毛利元就の孫「毛利輝元」は、父隆元の急死により 11 歳で家督を継ぐ。永禄 8 年(1565)に時の将軍・足利義輝から「輝」の一字を賜って「輝元」と名乗る。毛利家にとってこれはとても名誉なことだった。

★中央で織田信長が勢力を広げつつあり、室町幕府も滅亡の憂き目を見る。その最後の将軍・足利義昭は復権を望み、毛利家を頼って落ちのびてきてしまう。これが、毛利家の不幸の始まりだった.....

★時勢は毛利家に味方せず、上杉謙信、武田勝頼の反信長勢力は病死もしくは鎮圧される。反信長の一大勢力だった一向一揆衆も総本山・本願寺の降伏により下火となる。

本能寺の変が毛利家を救う

毛利家は孤立し滅亡が現実味を帯び始めた天正 10 年(1582)に、本能寺の変で信長が光秀に討たれる。当時、輝元は備中高松城にて羽柴秀吉と交戦していたが、和睦が成立し毛利家は一命をとりとめる。

★その後は伯父の小早川景隆の勧めに応じて秀吉に臣従する。これにより、元就の築きあげた中国地方 8 カ国・120 万石を守り抜くことに成功した.....はずだった。

★秀吉は子の秀頼を支える豊臣政権を盤石なものにするため、五大老・五奉行制度を確立していた。その人物は

五大老.....	徳川家康(1543-1616)	筆頭家老・関東東海に 256 万石
	前田利家(1539-1599)	北陸の加賀など 83 万石
	宇喜多秀家(1572-1655)	中国の吉備など 57 万石
	毛利輝元(1553-1625)	中国の安芸など 120 万石
	小早川景隆、上杉景勝	会津に 120 万石
五奉行.....	浅野長政(1547-1611)	筆頭奉行・甲斐甲府 22 万石
	石田光成(1560-1600)	近江佐和山 19 万石
	前田玄以(1539-1602)	丹波亀岡 5 万石
	長束正家(1562-1600)	近江水口 5 万石
	増田長盛(1545-1615)	大和郡山 22 万石

慶長 3 年(1598)秀吉が死去すると

臨終の間際に家康を呼び「わしの死後は秀頼の後見をくれぐれも頼む」といった内容の遺言をし、他の大老の前で秀頼への忠誠を誓約させた。

★最も強い影響力を持ったのは徳川家康と前田利家、秀吉の遺言により家康は京都・伏見城に入城し、秀頼の守り役を務める利家が大阪城に入って補佐した。

★その後家康は有力大名の伊達正宗、蜂須賀家政、黒田長政、加藤清正らと婚姻家系を結んで勢力拡大を図る。一方、前田利家は体調を崩し 1599 年あっけなく病死する。この利家が健在であったら、家康が豊臣家に反旗を翻すのは難しかったと言われる。

★豊臣政権下では武断派と文治派の内部対立が強まっており、文治派の石田光成にまったく人望がなく、有力武将を豊臣につなぎとめられなかった　→　豊臣家滅亡の一因。
慶長４年３月に利家が亡くなった夜、武断派の福島正則、黒田長政、加藤清正、浅野幸長、蜂須賀家政、藤堂高虎、細川忠興の７人が朝鮮戦争の補給などの件で遺恨を抱えていた光成を襲撃した、世に言う「7 将襲撃事件」。光成は家康が守る伏見の邸宅に逃げ込み助けられる、そして、近江佐和山城に蟄居させられる。

★大老上杉に謀反の兆しあり　→　上杉景勝の家老直江兼継が家康を挑発する「直江状」を送りつける　→　家康はこれに大激怒、上杉討伐を決断(1600 年 5 月)。

★輝元は毛利家を守るためには、家康に付くべきかそれとも光成に付くべきか考える。このままだと家康に飲み込まれてしまう、その結果光成に付くことを決断する。

★「一斉留書」によると輝元は２日間で大阪城に着き、城にいた家康の家臣を追い出す。
このまま東へ進軍して家康を攻めるか?　しかし､浜松までの武将は家康に味方している。

★輝元は大阪城にとどまり西国を抑える策がメリット有と判断した、もともと家康と戦うことは想定していなくて西国を獲得することではなかったか。

★家康が会津討伐のため伏見城から江戸城に戻ると、光成は家康を討つチャンス到来と越前加賀の大谷吉継を誘う。さらに、五奉行の前田玄以、増田長盛、長束正家らとともに中国地方の盟主である毛利輝元を総大将として擁立。

毛利輝元は総大将として大阪城に入城

毛利輝元は大阪城に 7 月 17 日入城、7 月 19 日には京都における家康の拠点である伏見城を攻め落とす。

★会津征伐に向かう途中の家康は、7 月 24 日に西軍が決起した報告を下野小山で受ける。

★江戸城に引き返した家康は、福島正則に先鋒を言いつけて 8 月 5 日から一月ほど江戸城に籠る。福島正則らが美濃の岐阜城を陥落させたことを確認すると、9 月 1 日江戸城を出発する。(これは福島正則、黒田長政、浅野幸長といった豊臣家に恩義のある武将が、家康に忠誠を誓っていることを確かめるためと思われる)

★家康は 32.000 の軍勢で東海道を進んで９月１３日に岐阜へ到着、１４日には東軍の結集する赤坂に着く。ところが、こともあろうに中山道経由の秀忠の主力軍は戦いに遅参し

てしまい、家康の激昂をかう。

毛利輝元は大阪城にいて参戦せず

★関ヶ原の戦いは９月１５日の朝８時ころ火ぶたが切って落とされる。
東軍 75.000 西軍 80.000 と言われているが、西軍の総大将毛利輝元は大阪城で戦況を眺めるだけで動かず、西軍の中には家康と密通している者が数多くいた。
毛利家の重臣吉川広家は家康と密通しており、毛利家を守るには家康につくことを選択、家康は「毛利の領国は与える」と約束している。これは戦いの一日前の９月１４日だった。これらのことを裏付けるかのような動きが、家康の進軍したコースに見て取れる。つまり、毛利が陣取る南宮山の麓には安国寺エケイと吉川広家も陣を置いていた。その目の前の中山道を、家康の大軍は縦列になって進んでいるのに、安国寺エケイと吉川広家は何もしていないのだ。その上、家康は毛利が陣取る南宮山のふもとに当たる桃配山に陣を置き、上からの攻撃に対してなんらの防御をしていなかったという。
★西軍は 80.000 と言われるが、毛利輝元だけでなく、毛利秀元、長束正家、安国寺エケイ、長宗我部盛親といった武将も戦いに参加せず傍観しており、実際に戦いに参加したのは 30.000 程度だったらしい。
★関ヶ原の戦いで勝利した家康は、９月１８日には石田光成の近江佐和山城を陥落させ、9 月２１日には逃亡していた光成をとらまえて１０月１日に六条河原で斬首してさらす。
★家康は苛烈な論功報償を行う、豊臣家の直轄地もげんぷうして裕福な財政基盤を大きく減らします。結果、徳川家は 250 万石の筆頭家老から 400 万石の天下の盟主となり、豊臣家は摂津、和泉、河内を領有する 65 万石の一大名の身分へと転落します。
★実質的な天下人に上りつめた家康ですが、主家の豊臣秀頼を討伐する大義名分がないために、形式的な主従関係を解消し始めるのは、家康が武家の棟梁である征夷大将軍に任命されてからのことになります。
★毛利輝元は領国を周防・長門２カ国にげんぷうされる.....しかし、毛利家は生きながらえて明治維新では「長州」として活躍、結果的には徳川幕府を倒して新しい国造りに成功した。

------- 時間をギリシャ語でクロノスとカイロスがあり、クロノスは時計で測る時間のことでカイロスはチャンスと解される。毛利は関ヶ原の戦いで、南宮山の麓を行く家康軍を討ち天下を取るチャンスの扉が一瞬だけ開いた、が、このチャンスをつかむことができなかった。大事を成すにはこのチャンスをつかむことが極めて大切!! --------

NHK「英雄たちの選択」より